

「技能と技術」誌表紙デザイン 最優秀賞受賞者インタビュー

「技能と技術」誌 編集事務局

1. はじめに

本誌では、例年、本誌に対する意識の高揚とデザイン教育の振興を目的とし表紙デザインコンテストを開催しています。本コンテストは、全国の職業能力開発施設のデザイン系学科の方を対象とし公募しております。そして、応募いただいた作品の中から優秀な作品を選出し、その中で「最も優秀」と評価された作品が、翌年に発行される本誌の表紙を飾ることになります。

本年度の表紙デザイン選考会（令和6年9月開催）では、島根県立東部高等技術校 Web デザイン科の森井 茜さんの作品が最優秀賞に、宇谷 史織さんの作品が優秀賞に選出され、本誌第4号（令和6年12月発行）にてお知らせしたところです。

本誌編集事務局は、最優秀賞作品を生み出した背

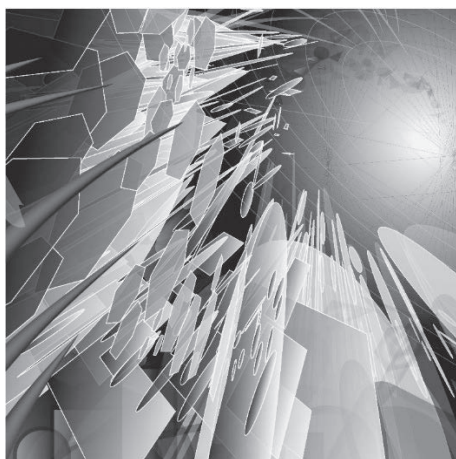
景や受賞の感想を伺うべく、1月某日、同校を訪問し、森井さんおよび宇谷さん、指導担当の秋國先生にインタビューを行いましたので報告します。（インタビュー内容はすべて令和7年1月時点です。）

2. 島根県立東部高等技術校 Web デザイン科

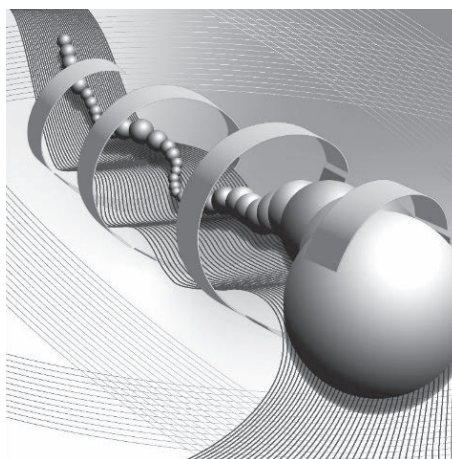
同校は、昭和22年に出雲木工補導所として島根県出雲市に発足しました。

その後、平成23年に再編整備があり、松江高等技術校と出雲高等技術校の2校が統合により島根県立東部高等技術校に改められ、産業界の求める即戦力の人材育成を訓練目標とし、実技訓練を重視したカリキュラムとなっています。また、多くの資格が取得できるように取り組み、就職後にミスマッチによる離職を避けるために、できる限り就職を希望する企業に対してインターンシップを実施していま

令和7年「技能と技術」誌表紙デザイン



最優秀賞作品

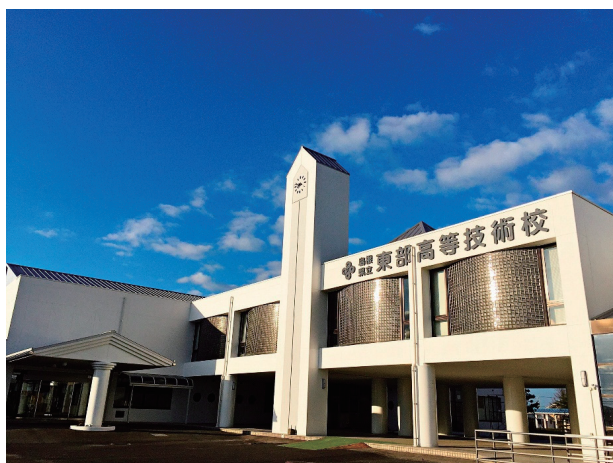


優秀賞作品

す。Web デザイン科では、「IT パスポート試験, ウェブデザイン技能検定」などの資格取得率と就職率が高く、多くの修了生が県内企業で活躍しています。

同校では、主に高等学校等の新卒者を対象とした施設内訓練、離転職者等への再就職訓練、在職者訓練の3つの事業を実施しています。

施設内訓練では、普通課程5科、短期課程3科、計8科の訓練科があります。



島根県立東部高等技術校の外観

3. 受賞者インタビュー



左から
平田校長、森井氏、宇谷氏、秋國指導員

―受賞時の率直な意見を教えてください。

森井氏 とにかく驚きました。まさか自分が一番になるとは思っていなかったです。Illustratorのさまざまな機能を練習するため、授業の一環として作成した側面もあったので驚き

ました。

宇谷氏 まさか取れるとは思っていませんでした。圏外だと思っていました。

秋國氏 Web デザイン科発足以降、佳作は受賞歴がありましたが、ダブル受賞は初めてですし、最優秀賞も初めてで、びっくりしました。

―今年からテーマを設定しましたが、いかがでしたか。

秋國氏 前進はキャッチーで分かりやすいテーマでした。これまでは過去の受賞作を参考にし、各自が「技能と技術」をどのように表現するか考えなければなりませんでした。「前進」という導きがあってよかったです。やりやすかったようです。

森井氏 過去の受賞作は立体とその奥行きを白黒だけで表現していたので、「前進」のイメージをもとに過去の受賞作も参考にしながら作りました。テーマがあってやりやすかったです。

―工夫した点は？

森井氏 なんとなく宇宙のようなイメージ、一つの光・ゴールにいろいろなものが向かっていくようなイメージで作成しました。色使いとしてはゴールに光が当たるようにし、明るい未来のイメージになるようにしました。紆余曲折しながらも、いろいろな形が暗めのところから、明るいところへ向かうようにしました。

宇谷氏 「前進」と聞いて、初めに、歩いて前に進んでいくことをイメージしました。「前に突き進む」をイメージするとしたらどう表現できるか、先輩方の作品を参考に考えました。今回は丸を使って表現しました。細かい形状とだんだんグラデーションで大きくなるように作りました。一つではなく複数あるのは人生を歩んでいく軌跡、足跡のようになればいいなと思ったからです。また、それだけでは弱いので、周囲のしがら

みを表現した交差した網のようなものをいれました。

ー制作の過程は？

秋國氏 最初に課題自体と、過去作の説明をしました。あとは自分たちでコンセプトを決めて制作をしました。「前進」とは何かを想像して、文章なりメモなり書き溜めて、だいたい「こういったのを作るぞ」と決めて制作に取り掛かってもらいました。ラフを手書きしてからの方もいました。「前進」のテーマがあったからやりやすかったと思います。ここからは個人戦でした。

森井氏 教室でしんとやっているのを感じながら、一緒に頑張っている感じでした。

秋國氏 コンセプトができた時にどういう風に作っていくのか聞いて、でき上がっている人は良いですが、進んでいない人にはこちらからアプローチしました。二人は自らどんどん進めていっていました。こちらからは決めつけ、色をつけない、手順を伝えるのではなくザックリした流れを伝えて、個人で決めて悩み試行してやってもらっています。



Web デザイン科 実習中の様子

ーどれくらいの期間で作成しましたか？

秋國氏 4月入校1か月目頃から取り組みますが、制作時間は全部合わせると1週間もないかもしれません。1回3時間週間に1、

2回を数週間やって制作しました。他の授業もある中、並行作業です。ソフトの機能を覚えていかないと他の課題もできないため、同時進行で操作方法を覚えながら、勉強しながら行いました。

ー大変でしたか？

森井氏・宇谷氏

追い詰められながらやりました（笑）

複数の検定試験の時期とも重なっていたので、受けながら、応募作品の制作も行っていました。

森井氏 基本、課題は掛け持ちで作成しているので大変でした。

宇谷氏 鍛えられたと思います。

秋國氏 就職先で即戦力となるようにカリキュラムが組まれています。

ー内容が濃いですね。

秋國氏 就活時期に求められるポートフォリオのためにも必死で作品を作っています。

皆さんいま就職活動中です。表紙デザインの応募期間が7・8月なので、完成した作品を持って回りやすいです。

毎年、一生懸命な方、マイペースな方、それぞれのペースでやってもらっています、今年はしっかり締め切り前に完成していました。自発的にやる方が多かったです。



森井氏（左）および宇谷氏（右）実習作品

ーお二人ともこの学校で初めてデザイン関連を学びましたか？

森井氏 大学では教育学部の美術専攻でした。Illustrator や Photoshop は多少使用したことはありましたが、その後異なる分野の企業に就職していたため、入校後一から学びなおした感じでした。

宇谷氏 大学の専攻や前職の職種はデザインとは異なるものでしたが、趣味で Illustrator をやっていた時期がありました。しかし、一部の機能だけの使用だったので、この学校でしっかり学ばせてもらった感じです。

ー学校生活はいかがですか？

森井氏 いろんな授業があります。デッサン、パッケージデザインもあります。メインはホームページの制作です。実践的なグループ作業があるので、役割分担があり勉強になります。楽しいです。

宇谷氏 教えていただいている先生は現役で活躍している方がほとんどです。現場ではどうなのか聞けるのは参考になりますし、ありがたいです。いろんな世代がクラスにいるのを楽しんでいます。いい雰囲気です。

ー楽しい授業は？

森井氏 ホームページ制作です。やりがいがあります。卒業制作では、ホームページ制作の取材から作成までやって、公開できたので達成感があります。

秋國氏 取材ではコミュニケーション力が必要で、アポイントが苦手な方はスタートから大変です。二人は取材もスムーズで、楽しみながら取り組んでいました。取材先の方がいろいろな話をされますので、良い学びとなったと思います。

ー受賞を通して

森井氏 デザインはもともと好きで中高は美術部、大学では美術専攻でした。でも 1 位になっ

たのは初めてでした。今までの頑張りが形になったと思います。両親が喜んでいました。

宇谷氏 うれしかったけれど、自分の作品に対し、ここはもっとこうできなかったのか、という気持ちになって、もうちょっと上のレベルに行けるよう頑張ろうと思いました。

森井氏 過去の受賞作品を見た時に、自分の作品は丸から離れすぎているので大丈夫か不安になりましたし心配しました。それに画面の散らばりが気になって反省もありましたが、選考結果では、まとまっていたと評価がありうれしかったです。今後も他者に見てもらうのがいい経験になると思いました。恐れず見てもらい、アドバイスをもらいながら成長したいと思いました。

宇谷氏 学んでいる身としては、こういった選考があるのは、目当てに頑張ろうと学習意欲が湧くきっかけになり、ありがたいことだと思っています。これからも Web デザイン系が好きなため、先生にご指導をいただきながら能力向上を目指したいと思っています。

4. おわりに

島根県立東部高等技術校では、充実した訓練内容に、実践的・専門的な技術の高い先生方の指導のもと、訓練生の皆さんが積極的に訓練されている様子がうかがえました。秋國先生をはじめ、受賞のお二人には、お忙しい中、インタビューにご協力いただき誠にありがとうございました。

なお、現在令和 8 年「技能と技術」誌の表紙デザインの募集を行っております。詳細は本誌 40 ページをご覧ください。皆さまからの多数のご応募をお待ちしております。